

## 選考経過

第43回中原悌二郎賞選考委員会は、さる6月24日にプレミアムホテルCABIN旭川において開催されました。今回は新型コロナが5類に移行し、4年振りに参集での開催となり、選考委員全員の出席が適いました。

事前に448名（505件の作品発表）の収集資料リストから選考委員には10名程度の作家の名前を挙げていただき、33作家が選考候補となりました。

これまでの中原悌二郎賞の基本的な選考の考え方を踏まえつつ、時代の潮流も見据えながら、選考委員の意見をまじえて、順次、絞り込むかたちで議論を繰り返しました。

いろいろと話し合いを繰り返した結果、33作家から第1回目に絞り込んだのは14名の作家でした。その後、論議を重ねて3名にまで絞り込み、最終的に今回の中原悌二郎賞の受賞者として中谷ミチコ氏を選ぶことになりましたのは、中谷氏が近年著しく表現領域の深度を深め、新たな表現に挑戦している努力とコロナ禍における世界に繊細かつ豊かな表現で挑もうとする姿勢に選考委員一同が大いに感銘を受けるところがあったのが、主たる理由です。

これまでの中原悌二郎賞を振り返ってみると、女性の中原悌二郎賞受賞は、今回から選考委員となられた青木野枝氏が初めてであり、それに続く女性作家としてこのたび選ばれたことは中谷氏にとってたいへん喜ばしいことではないかと思えますし、歴代の受賞者の中でもたいへん若い方であるということも、コロナ禍以後の新たな世界における中原悌二郎賞の羅針盤となるものではないかと思えます。

中原悌二郎賞選考委員長 酒井忠康